

竹中 浩
法学研究科・教授

【研究】

ペンシルバニア大学のフェルドマン教授とともに、国際共同研究「英語圏における日本法理解の可能性に関する総合的研究—規制と権利主張のあり方をめぐる日米比較—」を実施した。このうち、主として貧困対策を担当し、社会福祉をめぐる米国の状況についての分析に基づき、1990年代以降のわが国の福祉施策との比較可能性について調査研究を実施した。この成果は、平成30年、信山社より刊行予定の二宮正人教授古希記念論文集に寄稿する論文において発表する。

高橋明男教授を研究代表者とする研究プロジェクトに参加し、ロシアの国家行政に係る人材養成と法学部の関わりについて、サンクトペテルブルクでの調査を実施し、これを踏まえて、平成29年2月に本学で開催された国際シンポジウムにおいて発表した。

ロシア近代史の研究に関しては、平成30年度刊行予定の、1890年代後半のロシア政治思想に焦点を合わせた研究書の準備を進めた。さらに、ロシア史に関する概説書の一部を執筆した。

【教育】

院講義「西洋政治思想史・同特殊講義」及び学部講義「外国語文献研究Ⅰ」「西洋政治思想史」を行った。院講義では、西欧以外の地域における「法の支配」に関する諸問題について、文献を講読した。

【管理運営】

特になし。

【社会貢献】

平成25年度より始まった JICA 関西の国別研修(タンザニア地方政府改革研修)において、企画・準備に協力するとともに、基調講演を行った。大阪大学出版会において、編集委員会委員を務めた。

【特記事項】

第2学期においてサバティカルを取得した。